

修士論文(要旨)

2011年7月

日本在住中国人ビジネスパーソンのネットワーク研究  
—社会文化能力に着目して—

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

209J3008

魯 欣

## 目次

<b>第 1 章</b>	<b>はじめに</b> .....	1
1.1	研究の背景と目的.....	1
1.2	先行研究 .....	2
1.2.1	外国人ビジネスパーソンについて.....	2
1.2.2	ネットワークについて.....	3
1.2.3	社会文化能力と社会文化管理について.....	4
<b>第 2 章</b>	<b>日本在住中国人ビジネスパーソン概況</b> .....	7
2.1	中国人ビジネスパーソンの概観.....	7
2.2	中国人ビジネスパーソンの特徴.....	7
2.2.1	元留学生である中国人ビジネスパーソン.....	7
2.2.2	生活者としての中国人ビジネスパーソンの特徴.....	10
2.2.3	留学経験のない中国人ビジネスパーソン.....	11
<b>第 3 章</b>	<b>調査概要</b> .....	13
3.1	調査方法.....	13
3.2	調査対象者について.....	14
3.3	分析方法.....	15
<b>第 4 章</b>	<b>調査結果と分析</b> .....	17
4.1	中国人ビジネスパーソンのネットワーク.....	18
4.1.1	ネットワークの形成.....	18
4.1.2	ネットワークの種類.....	19
4.1.3	ネットワークの管理.....	24
4.2	ネットワークにおける社会文化管理.....	28
4.2.1	ビジネスネットワークにおける社会文化管理.....	28
4.2.2	プライベートネットワークにおける社会文化管理.....	32
4.2.3	個人独自の文化規範の形成.....	34
<b>第 5 章</b>	<b>総合的考察</b> .....	35
5.1	中国人ビジネスパーソンのネットワーク考察.....	34
5.2	異なるネットワークにおける社会文化管理考察.....	36
5.3	ネットワークと社会文化能力の関連考察.....	37
<b>第 6 章</b>	<b>おわりに</b> .....	39
6.1	本研究で分かったこと.....	39
6.2	ビジネス日本語教育の視点から.....	39
6.3	本研究の限界と今後の課題.....	40

謝辞

参考文献

## 要旨

### 第1章 はじめに

日本でビジネス活動を行う外国人ビジネスパーソンの中、中国人ビジネスパーソン(以下:CB)は人数において大きな割合を占めている。CBはビジネス活動や普段の生活上、日本社会の常識や文化との接触が非常に多く、接触できる範囲も比較的に広いため、多様性を持つパーソナルネットワークを構築・維持する可能性も大きい。CBの学習実態を把握することは難しいが、CBが実際の接触場面におけるインターアクションを調査研究することは実行できる。本研究は先行研究を参考し、CBの社会文化能力に焦点を合わせ、彼らが日本社会とどのように関わりを持ち、すなわちどのようなネットワークを構築して生活しているかという視点で調査、研究を行う。

### 第2章 日本在住中国人ビジネスパーソン概況

本章はCBの概観を紹介するうえ、CBを元留学生と留学未経験者の二種類に区別し、CBの特徴や彼らについてのこれまで研究を紹介する。

### 第3章 調査概要

本研究の調査対象者は首都圏に在住しているCB(男性5名、女性1名)である。データの分析と考察はネウストプニー(1997a)の「ネットワークのレイアウト」及び、村岡(2006)と加藤(2010)の社会文化管理の理論とプロセスの二つの理論的枠組みに沿って行う。

### 第4章 調査結果と分析

調査の結果、ネットワークに関して、対象者6名はビジネスネットワークとプライベートネットワークの二種類のネットワークを持っている。ビジネスネットワークは対象者がビジネス活動にかかわる人間との間で構築したネットワークである。プライベートネットワークは、対象者がビジネス活動以外のプライベートタイムで、自身のビジネス活動と無関係な人間との間で構築したネットワークである。二種類のネットワークにおいて、対象者は多種多様な接触場面にてインターアクションの経験を積み重ね、日本社会に対する認識を深めている。

### 第5章 総合的考察

分析考察の結果、ビジネスネットワークは「集団規範」(野元 2007)に制約をかけられるが、安定的に存続する可能性も大きい。対してプライベートネットワークは「集団規範」による制約が存在しない一方、存続も不安定である。また、多様性を持つネットワークにおける対象者の社会文化管理は単純に母文化や相手文化の規範を参照したものでなく、過去のインターアクション体験の積み重ねからくる複合的なものであることが分かった。対象者のネットワークの効果と彼らの社会文化能力は相互に影響し合い、連続的な輪を形成している。

### 第6章 おわりに

CBのネットワークとネットワーク内インターアクションの事例データの分析から、CBのネットワークの管理実態をCB自身の声によって把握したうえで、ネットワーク理論と社会文化管理理論の立場からネットワークの管理過程をつまびらかにし、新たな分析視座を示す。また、研究結果に基づいて、ビジネス日本語教育現場についての考えを示し、今後の研究に方向を提案した。

主要参考文献:

- 石田光規(2009)『産業労働社会における人間関係—パーソナルネットワーク・アプローチによる分析—』日本評論社
- 小川早百合・村岡英裕・備前徹・足立祐子・佐々木倫子(2003)『「社会文化能力」の捉え方』『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成 論文集第3巻』国立国語研究所
- 加藤好崇(2010)『異文化接触場面のインターアクション 日本語母語話者と日本語非母語話者のインターアクション規範』東海大学出版会
- 国立国語研究所(2006)『日本語教育の新たな文脈—学習環境,接触場面,コミュニケーションの多様性—』アルク
- ネウストプニー J.V.(1995a)『新しい日本語教育のために』大修館書店
- ネウストプニー J.V.(1995b)「日本語教育と言語管理」『阪大日本語研究』第7号 大阪大学日本語学講座編 pp.67-82
- ネウストプニー J.V.(1997a)「日本語教育とネットワークの考え方 —ネットワーク研究のためのガイド—」『国内日本語教育ネットワーク作りに関する調査研究—最終報告書—』日本語教育学会 pp. 12-19 181-196
- ネウストプニー J.V.(1997b)「プロセスとしての習得の研究」『阪大日本語研究』第9号 大阪大学日本語学講座編 pp.1-15
- ネウストプニー J.V.(2000)「ネットワーク:規範性とインタレストの問題」『平成11年度文化庁日本語教育研究委嘱 日本語教育における教授者の行動ネットワークに関する調査研究 最終報告』日本語教育学会 pp.37-52
- ネウストプニー J.V.(2002)「インターアクションと日本語教育:今何が求められているか」『日本語教育112号』日本語教育学会 pp.1-14
- 春原憲一郎(1992)「ネットワーキング・ストラテジー-交流の戦略に関する基礎研究-」『日本語学』Vol.11-No.11 pp.17-26
- 朴金秋(2007)「在日留学生のネットワーク構築に関する研究—中国・韓国・台湾の留学生の事例を中心に—」桜美林大学大学院国際学研究所 博士学位論文
- 村岡英裕(2002)「在日外国人の異文化インターアクションにおける調整行動とその規範に関する事例研究」『接触場面における言語管理について(Ⅱ)』千葉大学大学院社会文化科学研究所研究プロジェクト報告書第38集 pp.115-126
- 村岡英裕(2003)「社会文化能力はどのように習得されるのか—社会文化規範の管理プロセスからシラバスの構築へ—」『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成 論文集第3巻』国立国語研究所
- 村岡英裕(2006)「接触場面における社会文化管理プロセス」『日本語教育の新たな文脈』アルク pp.172-194
- 森岡清志(2000)『都市社会のパーソナルネットワーク』東京大学出版会

ウェブサイト資料:

- 厚生労働省>報道発表資料>2010年1月>外国人雇用状況の届出状況(平成21年10月末現在)について  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000040cz.html> (最終閲覧日 2011/07/05)
- 広報・報道・大臣会見 > プレスリリース > 過去のプレスリリース > 平成21年のプレスリリース > 平成20年における留学生等の日本企業等への就職状況について  
[http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press\\_090714-1.html](http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press_090714-1.html) (最終閲覧日 2011/07/05)
- 入国管理局ホームページ「統計」  
<http://www.immi-moj.go.jp/toukei/index.html> (最終閲覧日 2011/07/05)